

# 曙町市営住宅3号棟水道直結給水化工事

## 図面目次

図面番号	図面名称	縮尺
M-01	特記仕様書(1)	NOSCALE
M-02	特記仕様書(2)	NOSCALE
M-03	配置図・工事概要・付近見取図	1:400
M-04	給水設備 3号棟7177系統図(現況・撤去・改修図)	NOSCALE
M-05	3・4号棟 屋外平面図(現況・撤去図)	1:150
M-06	3・4号棟 屋外平面図(改修図)	1:150
M-07	3号棟 1階平面図(現況・撤去・改修図)	1:100
M-08	3号棟 2階平面図(現況・撤去・改修図)	1:100
M-09	3号棟 3階平面図(現況・撤去・改修図)	1:100
M-10	3号棟 4階平面図(改修図) 部分詳細図(現況・撤去・改修図)	1:100 1:50

株式会社 掛水環境研究所



項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項																																																																																																																																																																				
機械設備特記事項																																																																																																																																																																									
① 標準その他	<p>※ 配管表記 (1.1.7.4準拠) [1.1.8.5準拠]</p> <p>a) 機械室・ピット・P S内・天井点検口・配管分岐場所には必ず表記する。</p> <p>b) 表記内容は、流体・サイズ・系統名とし、場所・向き・文字サイズ等事前協議決定後に施工する。</p> <p>c) 配管の識別は、原則としてJIS Z 9102によるものとし、識別方法・色合いは監督職員の指示による。</p> <p>※ 機器表記 (該当する主要機器は事前に確認する。)</p> <p>a) 設計記号の付いている主要機器には、カットニングシート等にて表記 (管理番号・室名・設置年月等) を行う。</p> <p>b) パッケージエアコン等の空調機は、室内機だけでなく室外機にも表記を行う。</p> <p>c) 水中に設置する各種主要機器類は銘板 (製造社名・製造年月・型番・性能等) を盤付近にも設ける。</p> <p>※ 弁には、閉閉等を記入したアクリル札を取付け、風で飛んだり騒音を立てないように固定するか、表示方法を協議する。</p> <p>※ 埋設弁ボックスには、内部に系統名・管サイズ・設置年月を書いたアクリル札を入れる。</p> <p>※ 埋設弁ボックスの蓋は、流体の行き先側に蓋の裏面を向ける。</p> <p>※ 排水以外の屋外埋設管には、曲がり・分岐部・その他埋設管の位置が確認できるように地中埋設機を設ける。</p> <p>※ 排水以外の屋外埋設管の埋戻し時には、GL-150mm程度に埋設表示用アルミテープを埋設する。</p>	11 メカニカル継手	<p>※ メカニカル継手は伸縮可とう・離脱防止性能を有し、内外面エポキシ粉体塗装を施したものである。</p> <p>※ 改修工事等で銅管類 (ライニング銅管) を切断して、やむを得ずメカニカル継手を使用する場合には、切断部の防錆処理として、JAWWA K 135規格適合品にて処置する。</p> <p>※ 原則として下図に従う。詳細は国土交通省仕様による。 (2.2.6.3準拠) [2.2.4.3準拠]</p> <table border="1"> <caption>横走り管の吊り及び振れ止め最大支持間隔</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">分類</th> <th colspan="10">呼び径</th> </tr> <tr> <th>15</th><th>20</th><th>25</th><th>32</th><th>40</th><th>50</th><th>65</th><th>80</th><th>100</th><th>125</th><th>150</th><th>200</th><th>250</th><th>300</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">吊り金物による吊り</td> <td colspan="5">銅管等</td> <td colspan="5">2.0m</td> <td colspan="5">3.0m</td> </tr> <tr> <td colspan="5">ビニル管等</td> <td colspan="5">1.0m</td> <td colspan="5">2.0m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">形鋼振れ止め支持</td> <td colspan="5">銅管等</td> <td colspan="5">8.0m</td> <td colspan="5">12m</td> </tr> <tr> <td colspan="5">ビニル管等</td> <td colspan="5">6.0m</td> <td colspan="5">8.0m</td> </tr> </tbody> </table> <p>立て管の固定及び振れ止め箇所</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>固定</th> <th>銅管等</th> <th>最下層の床又は最上層の床</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>形鋼振れ止め支持</td> <td>銅管等</td> <td>各階1箇所</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ビニル管等</td> <td>各階1箇所</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 国土交通省仕様どおり吊り配管等を施工しても、他の資材配管等と干渉する場合は振止めを適宜設ける。</p> <p>※ 屋外等で吊り金物による施工ができない場合には、ブラケット等にて配管及び配管付属品を支持し、配管荷重による管の移動を抑える。</p> <p>※ 契約量水までの埋設給水管及び埋設ガス管は管の周囲100mm程度に保護砂を入れる。</p> <p>※ 契約量水以降の埋設給水管及び埋設ガス管は簡易保温管で巻く。</p> <p>※ 排水管は管が移動しないように中心程度まで埋戻す。ただし、土圧及び上層荷重が管まわりの耐荷重を超える場合は、遮断用砂で巻立て、外圧に対して管まわりを保護する。 (2.2.7.1準拠) [2.2.5.1準拠] [下水道排水設備指針と解説]</p>	分類	呼び径										15	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300	吊り金物による吊り	銅管等					2.0m					3.0m					ビニル管等					1.0m					2.0m					形鋼振れ止め支持	銅管等					8.0m					12m					ビニル管等					6.0m					8.0m					固定	銅管等	最下層の床又は最上層の床	形鋼振れ止め支持	銅管等	各階1箇所		ビニル管等	各階1箇所	25 防振施工	<p>※ コンクリート製の餅 (工場で製作) には、仕上がり5cm程度に砂利又は砂等で基礎を施す。</p> <p>※ プラスチック製の餅には、コンクリート製または既設の餅合材による基礎を施す。</p> <p>※ 舗装面に設置されない餅の蓋は、周囲をモルタル等 (厚さ10cm程度) により保護する。 [下水道排水設備指針と解説準拠]</p> <p>※ 機器の振動が建物に影響を及ぼすおそれのあるものは、適切な防振措置を施す。</p> <p>※ 電動機等により振動を生じる機器及び配管の固定部にはダブルナットやストッパーボルト等により緩み・脱着防止措置を施す。ナットは、アイマークにより締付けが確認できるようにする。</p> <p>[公共建築設備工事標準 (機械設備工事編) 準拠]</p> <p>※ 床又は壁に設置の機器が重量が大きく重心位置が比較的高い機器については転倒防止措置を施す。</p> <p>※ 天吊り機器には振止め用形鋼架台や斜材を用いる等して落下・傾き防止措置を適切に施す。</p> <p>※ 天吊り機器と吊り金物との接続箇所毎に防振装置を設ける。 [建築設備検査資格者講習テキスト準拠]</p>	26 転倒・落下・傾き防止		27 特定天井への対応		28 耐震施工	<p>設備機器の固定等は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針 (2014年版)」及び建設大臣官房官庁営繕部監修の「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説 (平成8年版)」による。局部震度法による設計用耐震震度は、構造体の耐震安全性の分類、設備機器の重要度及び設置層により選定する。100kg以上の機器に適用し、それ以下の機器については監督職員と協議する。</p> <p>給湯設備の転倒防止措置は、建築基準法施行令第129条の2の7第2号及び同令に基づく告示 (平成24年国土交通省告示第1447号) の定めによる。</p> <p>なお、施工に先立ち、耐震設備設計書を監督職員に提出し、承認を受けるものとする。</p>																																																														
分類	呼び径																																																																																																																																																																								
	15	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300																																																																																																																																																											
吊り金物による吊り	銅管等					2.0m					3.0m																																																																																																																																																														
	ビニル管等					1.0m					2.0m																																																																																																																																																														
形鋼振れ止め支持	銅管等					8.0m					12m																																																																																																																																																														
	ビニル管等					6.0m					8.0m																																																																																																																																																														
固定	銅管等	最下層の床又は最上層の床																																																																																																																																																																							
形鋼振れ止め支持	銅管等	各階1箇所																																																																																																																																																																							
	ビニル管等	各階1箇所																																																																																																																																																																							
② 総合調整	<p>本工事に該当する工事種目に応じて、下記項目の総合調整を行い、計画書及び報告書を監督職員に提出する。</p> <p>a) 風量調整</p> <p>b) 水量・水圧調整</p> <p>c) 室内外空気の温度の測定</p> <p>d) 騒音の測定</p> <p>e) 室内気流及びびじんあいの測定</p> <p>f) 飲料水の品質の測定</p> <p>なお、季節により運転条件が異なる。使用開始から定常状態に入るまでに時間を要する等の理由により、工期内の測定完了が不可能な調整項目の対応については、監督職員との協議による。 (2.1.3.3準拠) [2.1.3.3準拠]</p>	13 埋設管の保護		14 埋設深さ	<p>管の地中埋設深さは、原則として車両道路では管の上端より600mm以上、それ以外では300mm以上とする。ただし、寒冷地では凍結深度以上とする。 (2.2.7.2) [2.2.5.2]</p>	29 別途工事		30 支給品																																																																																																																																																																	
③ 配管材料	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">配管の種類</th> <th colspan="6">場所</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>屋内露出</th> <th>天井P S内</th> <th>床下暗渠内</th> <th>屋外露出</th> <th>屋外埋設</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給水</td> <td>○</td> <td>(9) (11) (12)</td> <td>○</td> <td>(9)</td> <td>(12) (16) (18)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>排水・通気</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>125A以上はVU</td> <td></td> </tr> <tr> <td>給湯</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>消火</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ガス</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷媒</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>機器ドレン</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷温水</td> <td>○</td> <td>(2) (3)</td> <td>○</td> <td>(2) (3)</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷却水</td> <td>(2) (3)</td> <td>(2) (3)</td> <td>(2) (3)</td> <td>(2) (3)</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 配管用炭素鋼管 (SGP規格: JIS G 3452)</p> <p>(2) 配管用炭素鋼管 (SGP白管: JIS G 3452)</p> <p>(3) 水道用硬質塩化ビニル管 (鋼管 (SGP-VB: JAWWA K 116))</p> <p>(4) 水道用硬質塩化ビニル管 (鋼管 (SGP-VD: JAWWA K 116))</p> <p>(5) 水道用耐熱性硬質塩化ビニル管 (鋼管 (SGP-HVA: JAWWA K 140))</p> <p>(6) 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (SGP-VS: WSP 041)</p> <p>(7) 排水用硬質塩化ビニル管 (D-VA: WSP 042)</p> <p>(8) 配管用ステンレス鋼管 (SUS 304 TP-A: JIS G 3459)</p> <p>(9) 一般配管用ステンレス鋼管 (SUS 304 TPD: JIS G 3448)</p> <p>(10) 断熱材被覆鋼管 (JCDA 0009)</p> <p>(11) 水道用美標ステンレス管 (JIS K 6787)</p> <p>(12) 水道用ステンレス二層管 (JIS K 6762)</p> <p>(13) 耐火二層管 (内管VP)</p> <p>(14) 硬質塩化ビニル管 (VP: JIS K 6742)</p> <p>(15) 硬質塩化ビニル管 (VP-VU: JIS K 6741)</p> <p>(16) 耐衝撃性硬質塩化ビニル管 (HVP: JIS K 6742)</p> <p>(17) 耐熱性硬質塩化ビニル管 (HT: JIS K 6776)</p> <p>(18) 水道配用水用ステンレス管 (JAWWA K 144)</p> <p>・建築設備用高密度ポリエチレン管</p> <p>(19) 消火用ステンレス管</p> <p>(20) ステンレス外面被覆鋼管</p> <p>(21) ステンレス管 (JIS K 6774)</p> <p>(22) 硬質塩化ビニル管 (JIS K 6741)</p> <p>(23) 保護材付空調用ドレン管 (JIS G 8430準拠: JIS K 6741)</p> <p>設計図面に個別の記載があるものについてはこれによらない。 (2.2.1.2準拠) [2.2.1.1準拠]</p>	配管の種類	場所						備考	屋内露出	天井P S内	床下暗渠内	屋外露出	屋外埋設		給水	○	(9) (11) (12)	○	(9)	(12) (16) (18)			排水・通気	○	○	○	○	○	125A以上はVU		給湯	○	○	○	○	○			消火	○	○	○	○	○			ガス	○	○	○	○	○			冷媒	○	○	○	○	-			機器ドレン	○	○	○	○	○			冷温水	○	(2) (3)	○	(2) (3)	-			冷却水	(2) (3)	(2) (3)	(2) (3)	(2) (3)	-			15 防食措置		16 保温工事	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">保温の種類</th> <th colspan="6">場所</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>屋内露出</th> <th>機械室・倉庫</th> <th>天井・P S内</th> <th>床下暗渠内</th> <th>屋外露出</th> <th>屋外埋設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給水</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>63(n) Ⅱ</td> <td>○</td> <td>63(n) Ⅱ</td> <td>(c)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>排水</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>屋内空調用ドレン管は保温材付き</td> </tr> <tr> <td>給湯</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷媒</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>断熱材被覆鋼管の場合</td> </tr> <tr> <td>矩形ダクト</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>丸形ダクト</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>弁・継手類</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>保温材の厚さは各工種に準拠</td> </tr> </tbody> </table> <p>(f) ロックウール保温材 (g) グラスウール保温材 (n) ポリスチレンフォーム保温材</p> <p>(c) 簡易保温管10mm (d) 簡易保温管20mm (a) 簡易耐熱保温管10mm (b) 簡易耐熱保温管20mm</p> <p>設計図面に個別の記載があるものについてはこれによらない。 (2.3.1.1準拠) [2.3.1.1準拠]</p>	保温の種類	場所						備考	屋内露出	機械室・倉庫	天井・P S内	床下暗渠内	屋外露出	屋外埋設	給水	○	○	63(n) Ⅱ	○	63(n) Ⅱ	(c)		排水	○	○	○	○	○		屋内空調用ドレン管は保温材付き	給湯	○	○	○	○	○			冷媒	○	○	○	○	○		断熱材被覆鋼管の場合	矩形ダクト	○	○	○	○	○			丸形ダクト	○	○	○	○	○			弁・継手類	○	○	○	○	○		保温材の厚さは各工種に準拠	17 塗装	<p>亜鉛鍍金面の塗装下地は化学処理 (エッチングプライマ) を施す。 (2.3.2.1) [2.3.2.1]</p>	18 はつり工事	<p>既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。 [2.4.1.3]</p>	19 非破壊検査	<p>はつり、穴開け及びあと施工アンカー等の施工にあたり、埋設物の事前調査を行う。施工場を鉄筋探査器により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 [2.4.1.1]</p>	20 あと施工アンカー	<p>新築工事においては、原則としてあと施工アンカーは使用しない。 [2.5.1.3]</p> <p>使用する場合には、工事の着手に先立ち施工計画書を作成し、監督職員の承認を受ける。あと施工アンカー作業における技能者は、あと施工アンカー工事の施工に関する十分な経験と技能を有するものとする。</p>
配管の種類	場所						備考																																																																																																																																																																		
	屋内露出	天井P S内	床下暗渠内	屋外露出	屋外埋設																																																																																																																																																																				
給水	○	(9) (11) (12)	○	(9)	(12) (16) (18)																																																																																																																																																																				
排水・通気	○	○	○	○	○	125A以上はVU																																																																																																																																																																			
給湯	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																				
消火	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																				
ガス	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																				
冷媒	○	○	○	○	-																																																																																																																																																																				
機器ドレン	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																				
冷温水	○	(2) (3)	○	(2) (3)	-																																																																																																																																																																				
冷却水	(2) (3)	(2) (3)	(2) (3)	(2) (3)	-																																																																																																																																																																				
保温の種類	場所						備考																																																																																																																																																																		
	屋内露出	機械室・倉庫	天井・P S内	床下暗渠内	屋外露出	屋外埋設																																																																																																																																																																			
給水	○	○	63(n) Ⅱ	○	63(n) Ⅱ	(c)																																																																																																																																																																			
排水	○	○	○	○	○		屋内空調用ドレン管は保温材付き																																																																																																																																																																		
給湯	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																				
冷媒	○	○	○	○	○		断熱材被覆鋼管の場合																																																																																																																																																																		
矩形ダクト	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																				
丸形ダクト	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																				
弁・継手類	○	○	○	○	○		保温材の厚さは各工種に準拠																																																																																																																																																																		
④ 配管付属品	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">弁の使用区分</th> </tr> <tr> <th>系統名</th> <th>弁名称</th> <th>寸法区分</th> <th>規格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">給水</td> <td>ボール弁</td> <td>50A以下</td> <td>青銅・管端防食・5K ※ 10K・16K・20K</td> </tr> <tr> <td>バタフライ弁</td> <td>65A以上</td> <td>ライニング・5K ※ 10K・16K・20K</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">給湯</td> <td>ボール弁</td> <td>50A以下</td> <td>青銅・管端防食・5K ※ 10K・16K・20K</td> </tr> <tr> <td>バタフライ弁</td> <td>65A以上</td> <td>SUS・5K ※ 10K・16K・20K</td> </tr> <tr> <td>冷温水</td> <td>玉形弁</td> <td>50A以下</td> <td>青銅・管端防食・5K ※ 10K・16K・20K</td> </tr> <tr> <td>冷却水</td> <td>バタフライ弁</td> <td>65A以上</td> <td>ライニング・5K ※ 10K・16K・20K</td> </tr> </tbody> </table> <p>設計図面に個別の記載があるものについてはこれによらない。 (2.2.2.1準拠) [2.2.1.1準拠]</p>	弁の使用区分				系統名	弁名称	寸法区分	規格	給水	ボール弁	50A以下	青銅・管端防食・5K ※ 10K・16K・20K	バタフライ弁	65A以上	ライニング・5K ※ 10K・16K・20K	給湯	ボール弁	50A以下	青銅・管端防食・5K ※ 10K・16K・20K	バタフライ弁	65A以上	SUS・5K ※ 10K・16K・20K	冷温水	玉形弁	50A以下	青銅・管端防食・5K ※ 10K・16K・20K	冷却水	バタフライ弁	65A以上	ライニング・5K ※ 10K・16K・20K	21 パッケージ形空調機	<p>機器仕様</p> <p>a) グリーン購入法調達基準適合品とし、各メーカーの最高効率機種とする。</p> <p>b) 室外機仕様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>JRA耐震構造仕様</li> <li>耐塩害仕様</li> <li>防振架台</li> <li>転倒防止金物</li> <li>高調波対策仕様</li> </ul> <p>c) 室内機仕様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ドレンアップメカ</li> <li>自動昇降パネル</li> <li>防振装置</li> <li>振止め金物</li> </ul> <p>工事仕様</p> <p>a) ドレンアップメカにより排水する場合は、機器直近にて鳥居状に配管し、立下り部直上に掃除口を設ける。</p> <p>b) 配管化粧カバーは、エンドキャップを使用しテープ巻きの範囲を最小限とし、ジャバラ部材は使用しない。</p> <p>c) 配管化粧カバー・配管ラッキングは室外機の前直まで施す。</p> <p>d) 室内機及び室外機への電源送りは電気設備工事とし、室外機間の渡り電気配線及び室外機-室内機間の電気配線 (アース含む) は配管、配線共本工事とする。渡り配線で、冷媒配管と同ルートを通す場合は同管外装内に納める。</p>	22 ダクト及びダクト付属品	<p>空調ダクト材料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>亜鉛鉄板製</li> <li>硬質ポリ塩化ビニル管 (VU)</li> <li>ステンレス製</li> </ul> <p>換気ダクト材料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>亜鉛鉄板製</li> <li>硬質ポリ塩化ビニル管 (VU)</li> <li>ステンレス製</li> </ul> <p>屋外フード</p> <p>ウェザーカバーはステンレス製・給排気形・水切り付きとし、バンドキャップはステンレス製・深型・水切り付きとする。原則として、排気用には防鳥網、給気用には防虫網を設ける。</p>																																																																																																																																						
弁の使用区分																																																																																																																																																																									
系統名	弁名称	寸法区分	規格																																																																																																																																																																						
給水	ボール弁	50A以下	青銅・管端防食・5K ※ 10K・16K・20K																																																																																																																																																																						
	バタフライ弁	65A以上	ライニング・5K ※ 10K・16K・20K																																																																																																																																																																						
給湯	ボール弁	50A以下	青銅・管端防食・5K ※ 10K・16K・20K																																																																																																																																																																						
	バタフライ弁	65A以上	SUS・5K ※ 10K・16K・20K																																																																																																																																																																						
冷温水	玉形弁	50A以下	青銅・管端防食・5K ※ 10K・16K・20K																																																																																																																																																																						
冷却水	バタフライ弁	65A以上	ライニング・5K ※ 10K・16K・20K																																																																																																																																																																						
5 スリーブ	<p>国土交通省仕様とする。ただし、水密を要する部分は配管用ステンレス鋼管及び水膨脹性ゴムリングを用いる。 (2.2.2.27準拠)</p>	23 合併処理浄化槽	<p>浄化槽の使用開始後概ね3ヶ月間の試運転調整を行う。浄化槽法による「泉守点検及び清掃等」のほか下記事項による。</p> <p>a) 最低限の点検回数は、小型・沈殿分離方式は月に1回、流量調整槽のある場合は2週に1回とする。</p>	打合せ事項	<table border="1"> <thead> <tr> <th>官公庁等名</th> <th>打合せ日時</th> <th>令和</th> <th>6年</th> <th>9月</th> <th>6日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>打合せ事項</td> <td>上下水道局 お客様サービス課 4階直結給水事前協議</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>官公庁等名</th> <th>打合せ日時</th> <th>令和</th> <th>年</th> <th>月</th> <th>日</th> </tr> <tr> <td>打合せ事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>官公庁等名</th> <th>打合せ日時</th> <th>令和</th> <th>年</th> <th>月</th> <th>日</th> </tr> <tr> <td>打合せ事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	官公庁等名	打合せ日時	令和	6年	9月	6日	打合せ事項	上下水道局 お客様サービス課 4階直結給水事前協議					官公庁等名	打合せ日時	令和	年	月	日	打合せ事項						官公庁等名	打合せ日時	令和	年	月	日	打合せ事項																																																																																																																																					
官公庁等名	打合せ日時	令和	6年	9月	6日																																																																																																																																																																				
打合せ事項	上下水道局 お客様サービス課 4階直結給水事前協議																																																																																																																																																																								
官公庁等名	打合せ日時	令和	年	月	日																																																																																																																																																																				
打合せ事項																																																																																																																																																																									
官公庁等名	打合せ日時	令和	年	月	日																																																																																																																																																																				
打合せ事項																																																																																																																																																																									
⑥ 支持材料	<p>※ 1階土間コンクリート下部配管は、ステンレス製吊りボルトにてスラブ筋に支持する。</p> <p>※ 屋外及びピット内配管の支持金物・形鋼振れ止め金物・吊り金物・インサート金物・アンカーボルトはステンレス製とする。</p> <p>※ 形鋼振れ止め部材の選定は、公共建築設備工事標準 (機械設備工事編) に準ずるものとし、既製品は使用しない。</p> <p>※ 冷媒管の吊り用支持受け材として、断熱材被覆鋼管と吊り金物との間に保護プレートを設ける。</p>																																																																																																																																																																								
7 さや管工法	<p>さや管ヘッダー工法で施工する場合、さや管施工後に配管挿入を行い、同時施工しない。</p>																																																																																																																																																																								
⑧ 変位吸収配管施工	<p>※ 建築物導入部及びエキスパンションジョイント部は、フレキシブルジョイント等を使用した方法で施工する。</p> <p>※ 埋設管の屋内外接続部では、地盤沈下等の変位に対して可とう継手、伸縮可とう継手を設ける等の措置を講じる。</p> <p>設計図面に個別の記載がない場合は、伸縮継手、自在継手を使用してもよい。</p> <p>※ 埋設管と露出配管の切替部 (配管立ち上がり部) に伸縮継手を設ける。 [給水装置工事施工要領準拠] [下水道排水設備指針と解説準拠]</p>																																																																																																																																																																								
9 フランジ接合	<p>※ 屋外及びピット内のフランジ接合材は、ステンレス製とし換付防止処理を施す。</p> <p>※ 異種管のフランジ接合は、絶縁スリーブ、絶縁ワッシャー等による絶縁フランジ接合とする。</p>																																																																																																																																																																								
⑩ 敷設接合	<p>ポリエチレン管融着接合作業における技能者は、十分な経験と技能を有するものとする。</p>																																																																																																																																																																								

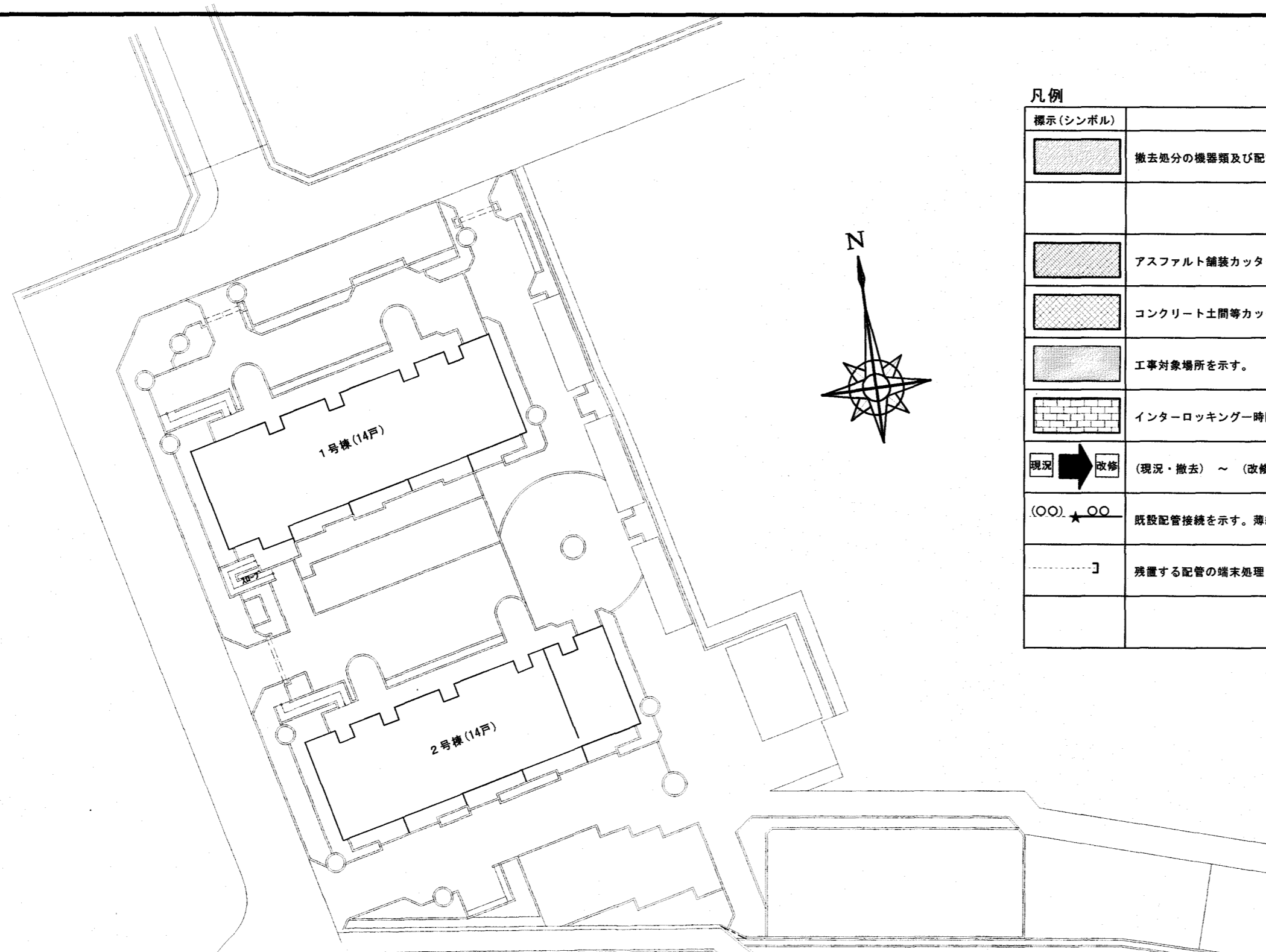
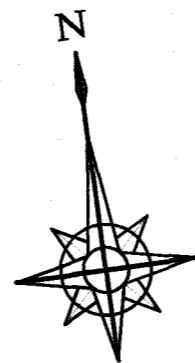
## 高知市 都市建設部 公共建築課

工 事 名	保 係 長 課長補佐	図 面 番 号
曙町市営住宅3号棟水道直結給水化工事	水関 戸田 中村	M-02
図 面 名 特記仕様書 (2)	更新日 2024.5.1	作 図 2024年 10月 日



付近見取図

標示(シンボル)	摘要
	撤去処分の機器類及び配管類等を示す。
	アスファルト舗装カッター、取壊し及び復旧を示す。(A50-100)
	コンクリート土間等カッター、はつり除去及び復旧を示す。
	工事対象場所を示す。
	インターロッキング一時除去再貼り付けを示す。
	現況 → 改修 (現況・撤去) ~ (改修) を示す。
	既設配管接続を示す。薄線表示(〇〇)は既設・濃線表示〇〇は改修を示す。
	残置する配管の端末処理(キャップ止め)を示す。



工事箇所  
仮囲いを行うこと。

工事車両置場

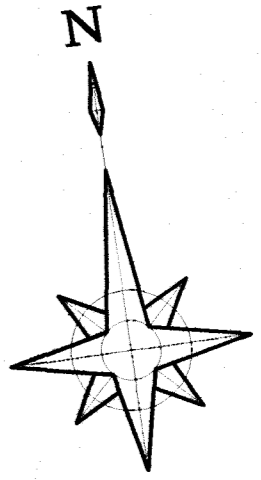
工事概要  
既存3・5号棟共用受水槽+加圧ポンプ方式を3号棟のみ切り離し、直圧方式に変更する。

配置図(現況・撤去図) S=1:400

訂正	月. 日	高知市都市建設部公共建築課	係	係長	課長補佐	課長	株式会社 掛水環境研究所 高知市南久万204番地8 TEL 875-5812 FAX 826-7136	設計年月日	承認	工事名称 曙町市営住宅3号棟水道直結給水化工事	図面番号
								2024.08.			図面名称 配置図・工事概要・付近見取図



上水本管100H1



施工時掘削上の注意

3号棟 (24戸) 平面図参照

ハコ

50

80

80

75mm<sup>2</sup>閉止処理

φ20 臭水罫一時取外  
伸縮止水栓閉止処理

4号棟へ

75制水弁

5号棟へ

本管より

4号棟 (18戸)

ポンプ室

受水槽

3・4号棟 屋外平面図(現況・撤去図) S=1:150

訂正	月. 日	

高知市都市建設部公共建築課

係	係長	課長補佐	課長
水関	戸田	中村	高村

株式会社 掛水環境研究所  
 高知市南久万204番地8 TEL 875-5812  
 FAX 826-7136

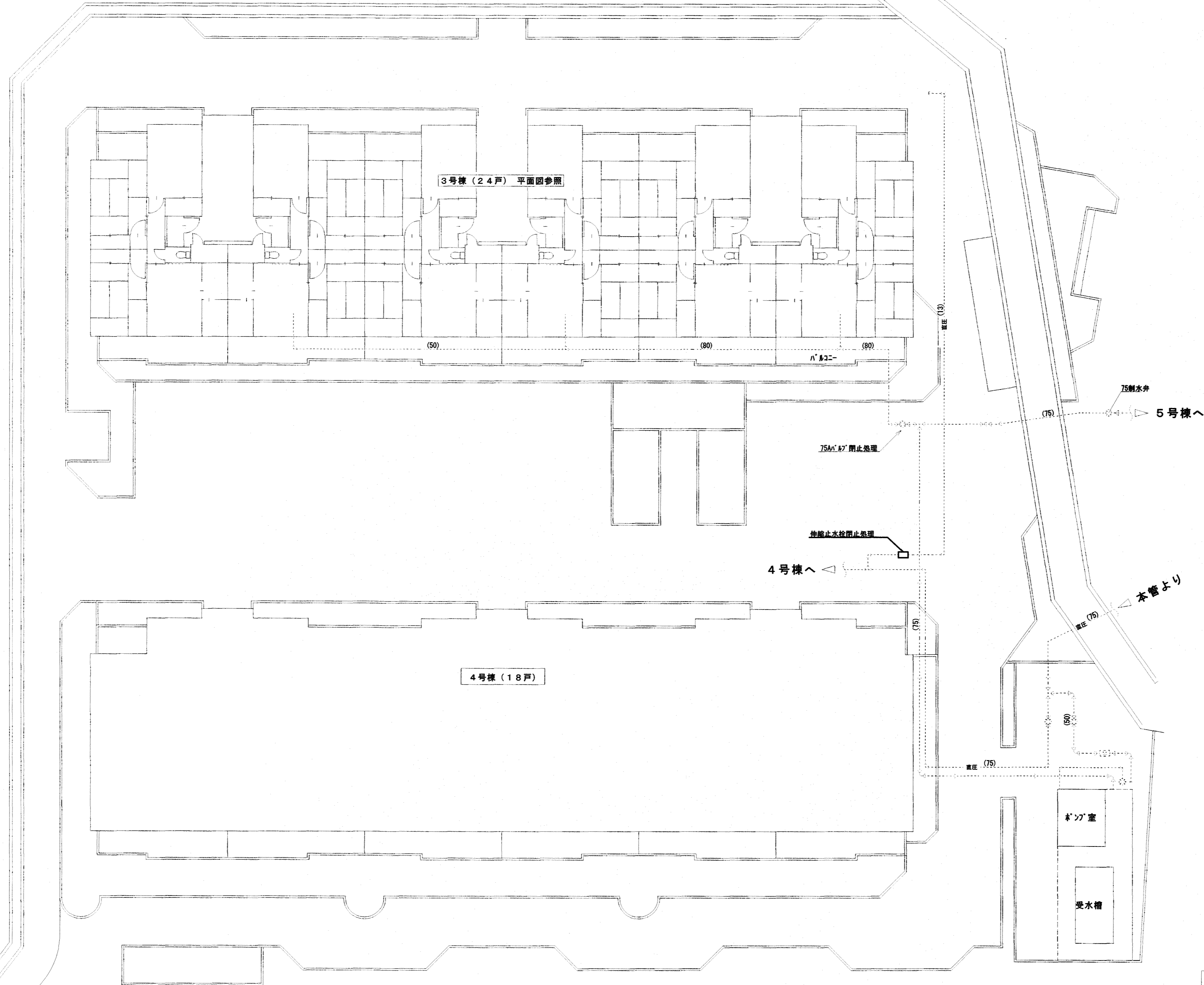
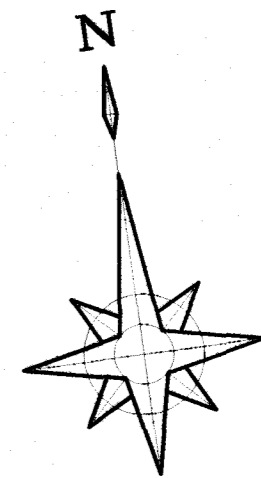
設計年月日  
 2024. 8 .  
 設計

承認  
 検図  
 宇賀 龍介





工事名称  
 曙町市営住宅3号棟水道直結給水化工事  
 図面名称  
 3・4号棟 屋外平面図(現況・撤去図)

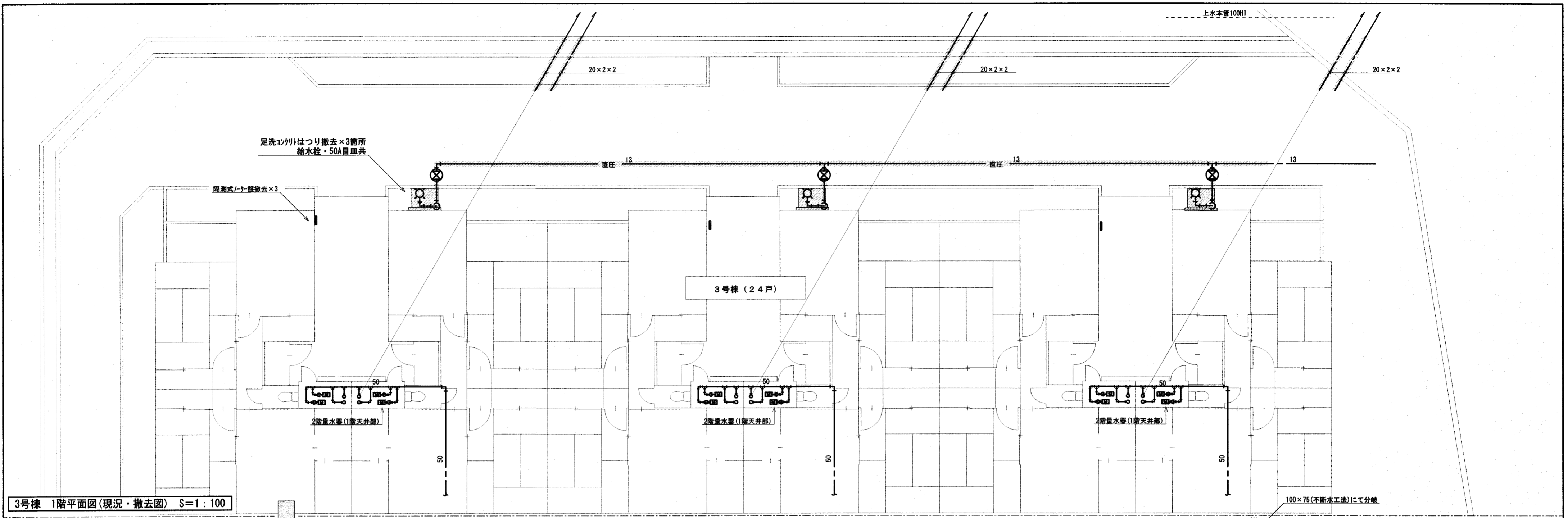
縮尺  
 1:150  
 図面番号  
 M-05

上水本管100H1

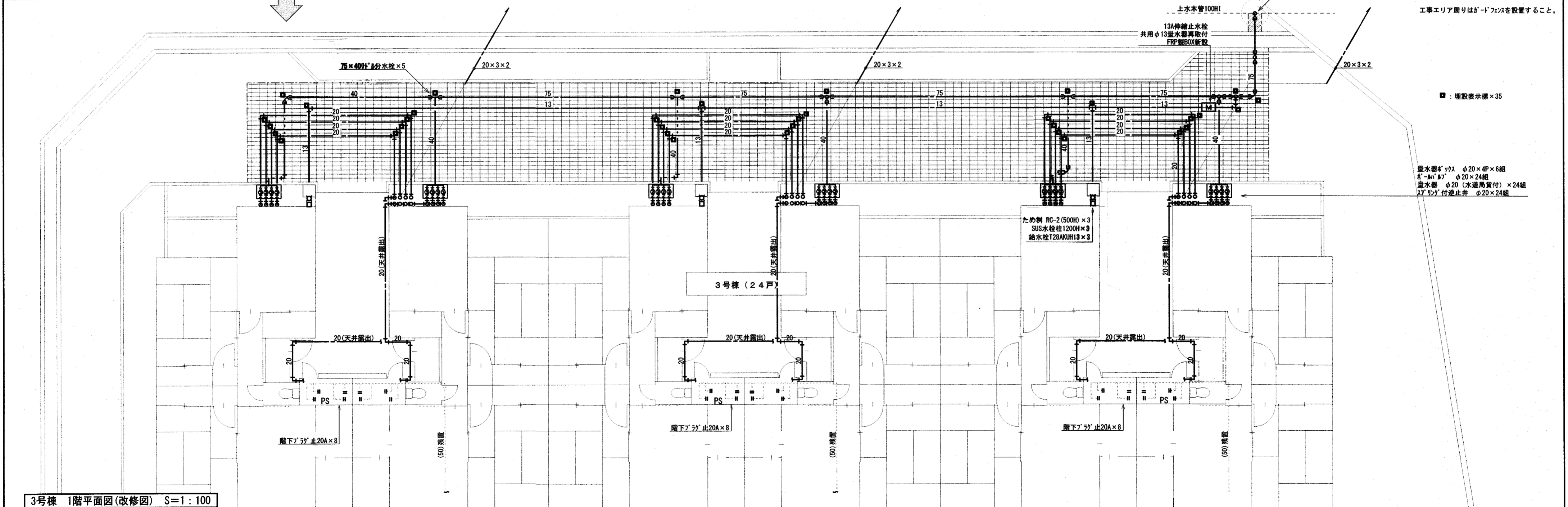


3・4号棟 屋外平面図(改修図) S=1:150

訂正	月.日	高知市都市建設部公共建築課	係	係長	課長補佐	 株式会社 掛水環境研究所 高知市南久万204番地8 TEL 875-5812 FAX 826-7136	設計年月日	承認	工事名称	図面番号
							2024.8		曙町市営住宅3号棟水道直結給水化工事	M-06
							設計	検図	図面名称	縮尺
								宇賀 龍介	3・4号棟 屋外平面図(改修図)	1:150



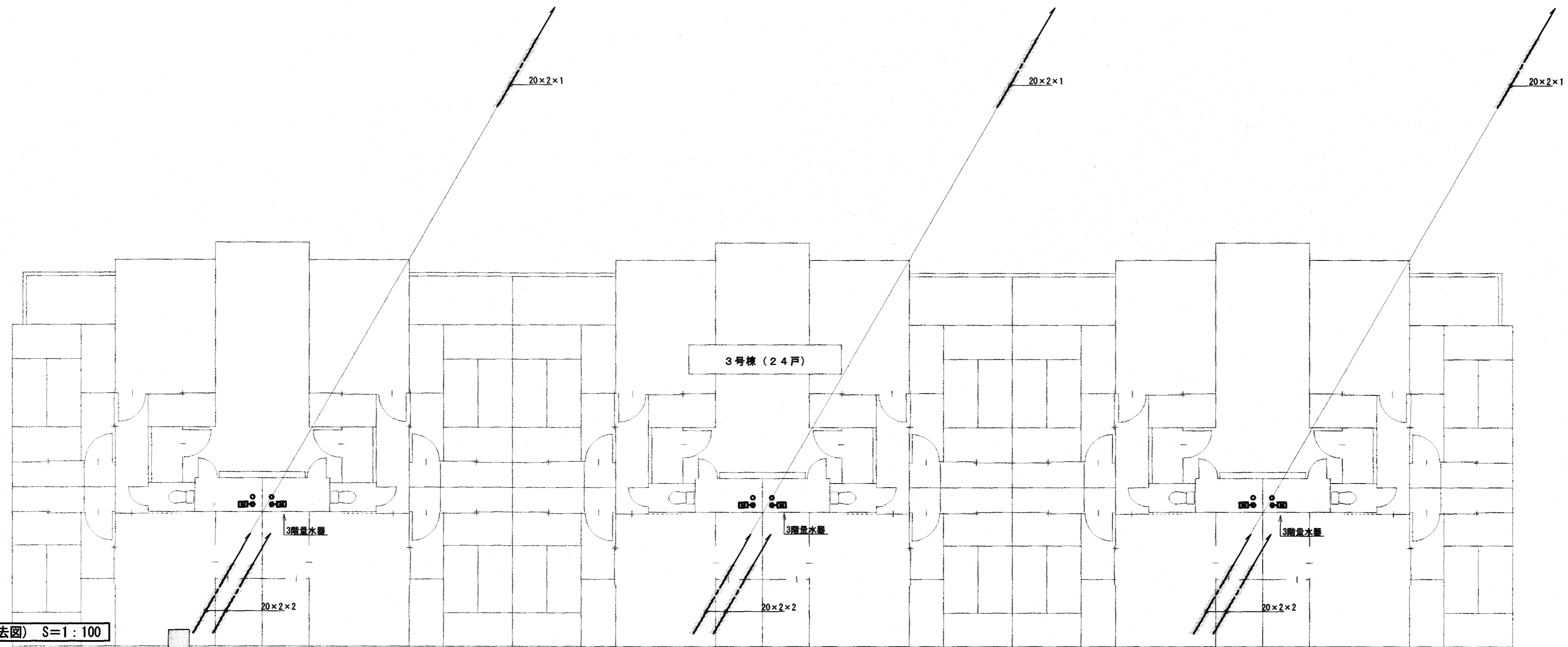
3号棟 1階平面図(現況・撤去図) S=1:100



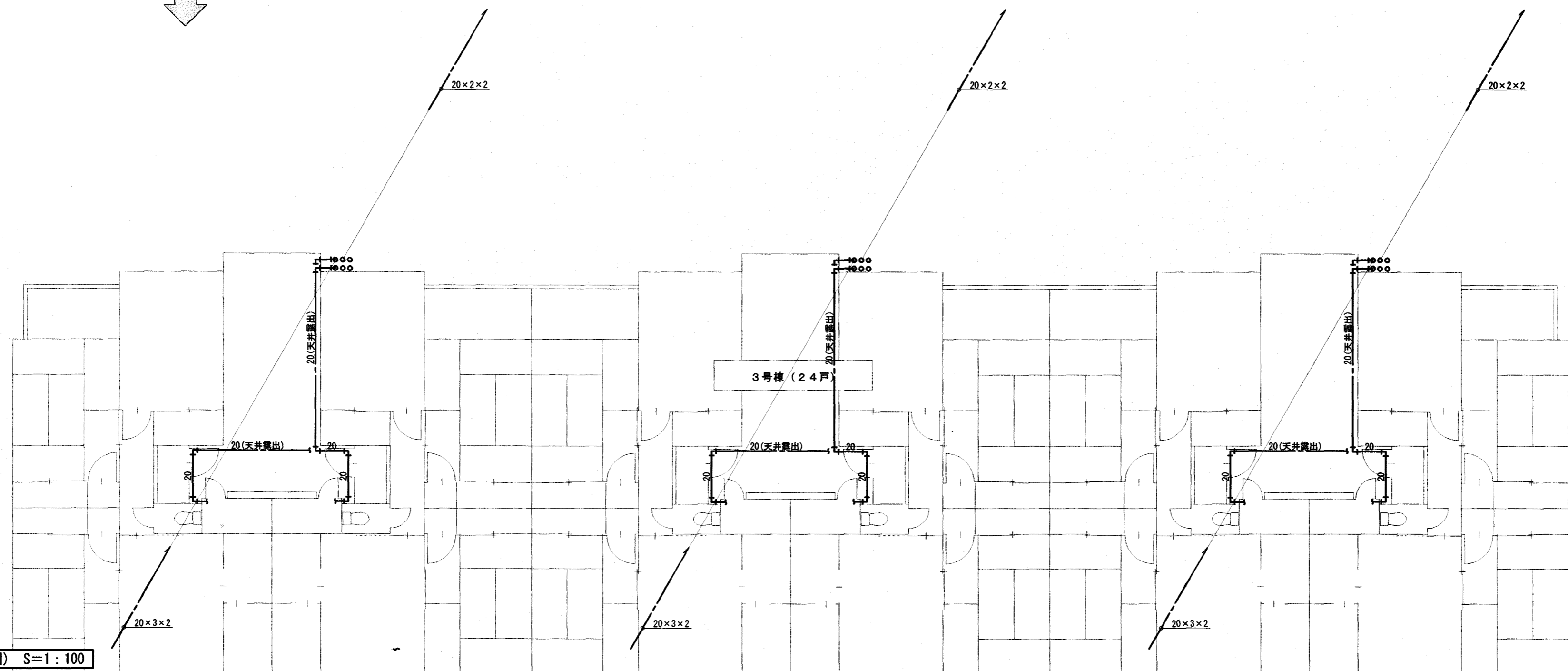
3号棟 1階平面図(改修図) S=1:100

訂正	月 日	高知市都市建設部公共建築課	係	係長	課長補佐	課長	株式会社 掛水環境研究所 高知市南久万204番地8 TEL 875-5812 FAX 826-7136	設計年月日	承認	工事名称 曙町市営住宅3号棟水道直結給水化工事	図面番号
			水関	戸田	中村	掛水		2024. 8	宇賀 龍介		図面名称 3号棟 1階平面図(現況・撤去・改修図)



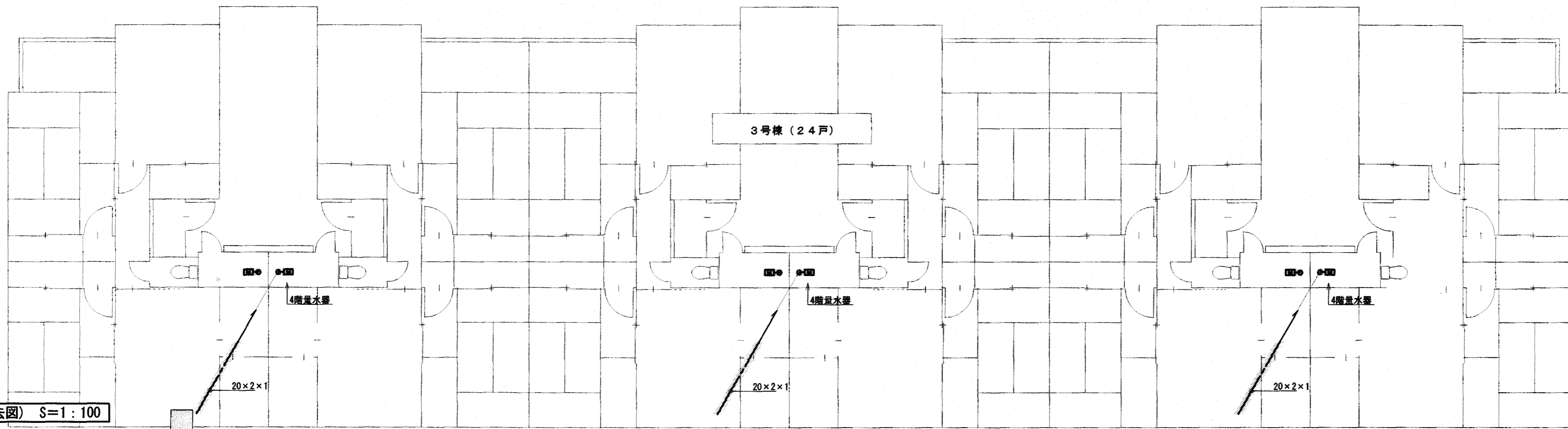


3号棟 2階平面図(現況・撤去図) S=1:100

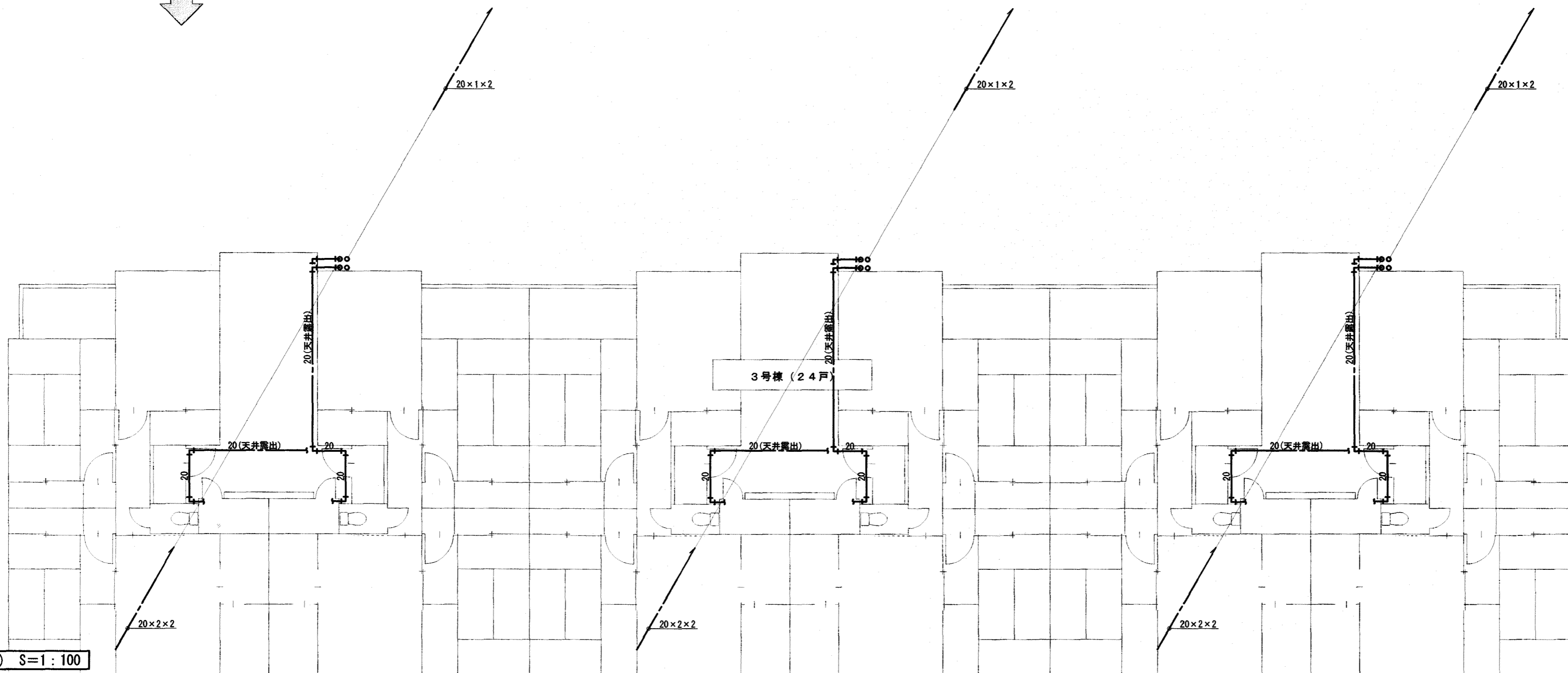


3号棟 2階平面図(改修図) S=1:100

訂正	月	日	高知市都市建設部公共建築課	係	係長	課長補佐	課長	株式会社 掛水環境研究所 高知市南久万204番地8 TEL 875-5812 FAX 826-7136	設計年月日	承認	工事名称	図面番号
									2024. 8		曙町市営住宅3号棟水道直結給水化工事	
								設計	検図	図面名称	縮尺	
									宇賀 龍介	3号棟 2階平面図(現況・撤去・改修図)	1:100	

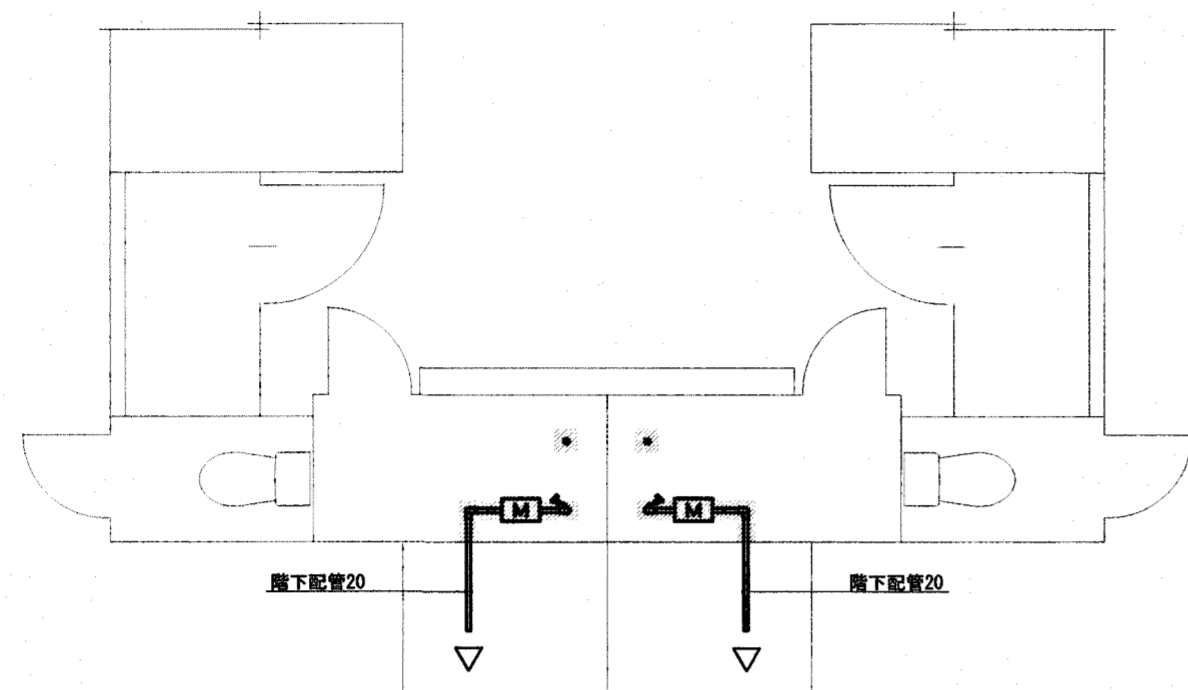


3号棟 3階平面図(現況・撤去図) S=1:100

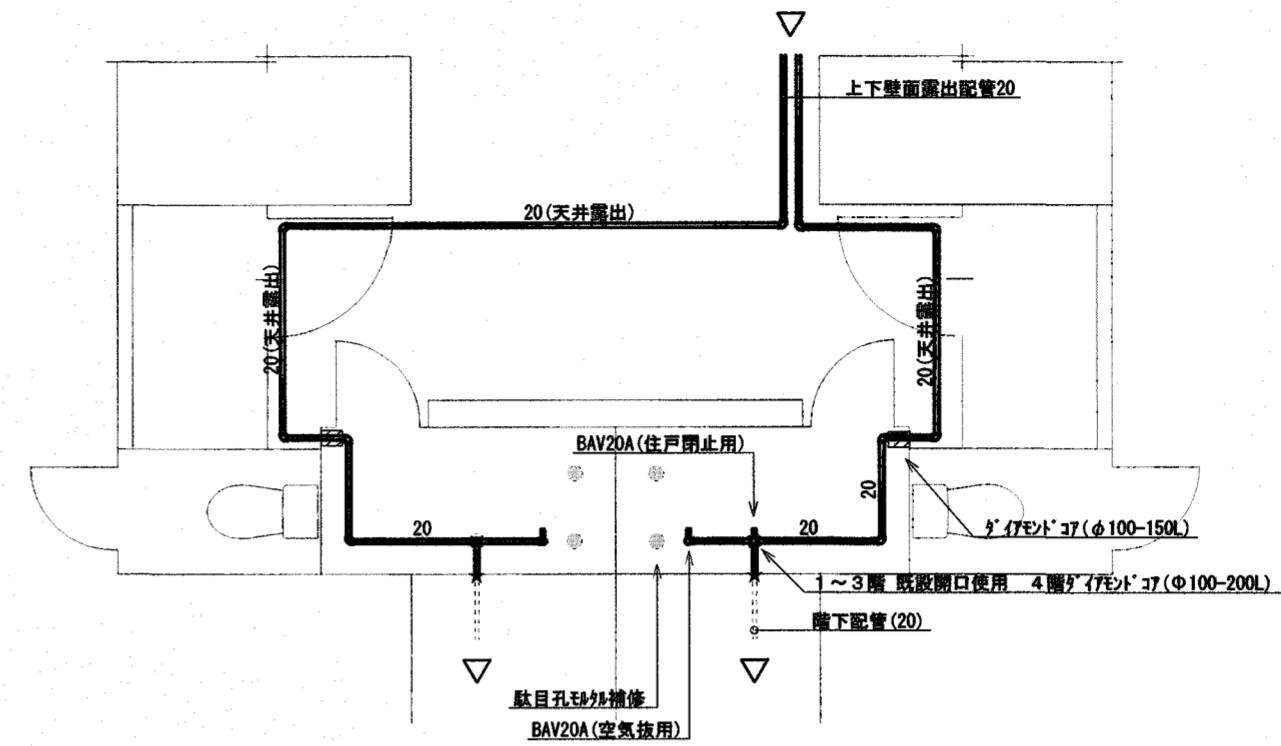
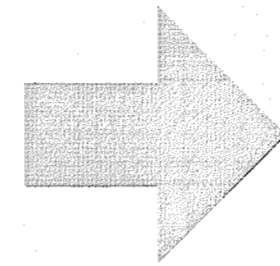


3号棟 3階平面図(改修図) S=1:100

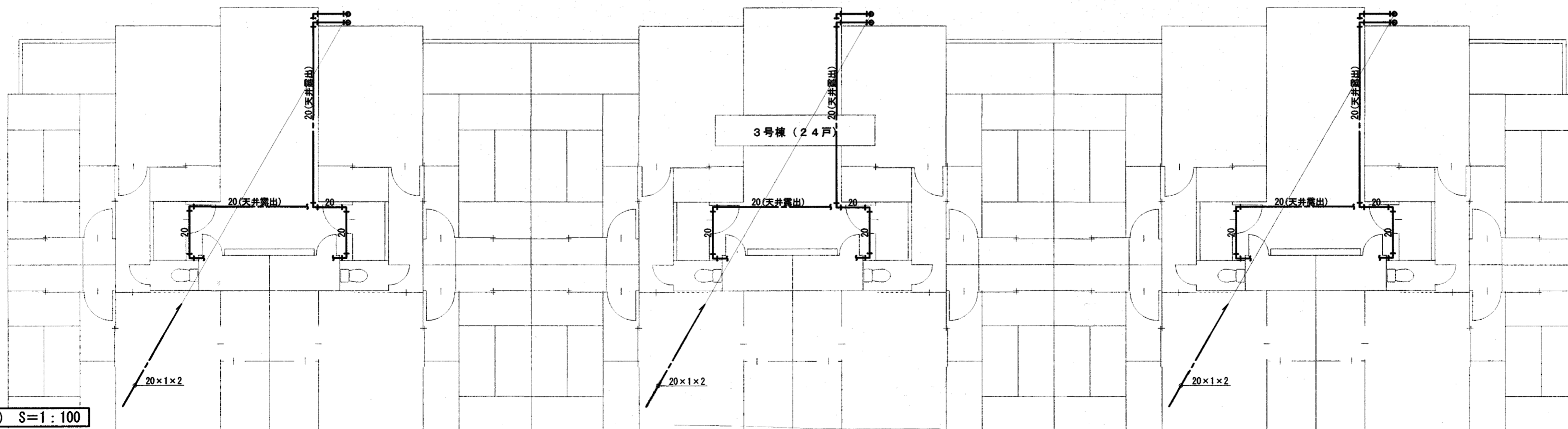
訂正	月	日	高知市都市建設部公共建築課	係	係長	課長補佐	課長	株式会社 掛水環境研究所 高知市南久万204番地8 TEL 875-5812 FAX 826-7136	設計年月日	承認	工事名称 曙町市営住宅3号棟水道直結給水化工事	図面番号 M-09
				水関	戸田	半村	村松		2024.8	検図		



【給水設備】部分詳細図(現況・撤去図) S=1/50



【給水設備】部分詳細図(改修図) S=1/50



3号棟 4階平面図(改修図) S=1:100

訂正	月・日		高知市都市建設部公共建築課	係	係長	課長補佐	課長	株式会社 掛水環境研究所 高知市南久万204番地8 TEL 875-5812 FAX 826-7136	設計年月日 2024. 8	承認	工事名称 曙町市営住宅3号棟水道直結給水化工事	図面番号 M-10
				水関	戸田	宇村	酒村	設計	設計	検図 宇賀 龍介	図面名称 3号棟 4階平面図(改修図) 部分詳細図(現況・撤去・改修図)	縮尺 1:100 1:50